

## 平成 28 年 9 月期企業動向アンケート調査(第 86 回) ～前期比改善、来期も改善の見込み～

- アンケート回答企業の今期（7～9月期）の業況判断D I（全体）は「▲5（前期比+19P）」に改善した。来期（10～12月期）の見通しは「好転」「不変」が増加し、D Iは「+3」に改善する見込み。
- 全ての業種で今期のD Iが前期比改善した。なかでも卸小売業は夏物商品の売上増や来店数の増加で大幅に改善したほか、サービス業もシルバーウィークや熊本地震復興対策の旅行クーポン（九州ふっこう割）の効果等で改善した。来期は、建設業を除く全ての業種がプラスに転ずるなど、改善が見込まれる。
- 資金繰りD Iは全体で前期比ほぼ横ばいで、業種別では建設業が「+7」と、プラス幅が縮小した。設備・店舗等D Iは全体で「不足」が前期より拡大し、業種別は建設業が不足に転じた。雇用者数D Iは、全体・業種別とも「不足」が前期比拡大し、特に製造業は前期より不足感が強まった。
- 平成 29 年度新卒者採用計画は、「採用なし」「未定」とする企業が全体の約 6 割を占めた。採用予定者数は全業種で今年度比「横ばい」、学歴別では「高校卒」の回答が多かった。
- 平成 29 年度設備投資計画は、今年度比「横ばい」、投資額別では「1千万円以上5千万円未満」、業種別では「製造業」がそれぞれ最も多かった。設備投資の目的では1位が「更新」、2位は「補修」となった。

＜全般的業況判断D Iの動き＞

業種	D I		
	前期	今期	来期見通し
全体	▲ 24	▲ 5	3
製造業	▲ 24	▲ 9	6
建設業	▲ 16	▲ 3	▲ 7
卸小売業	▲ 26	▲ 2	6
サービス業	▲ 29	▲ 6	3

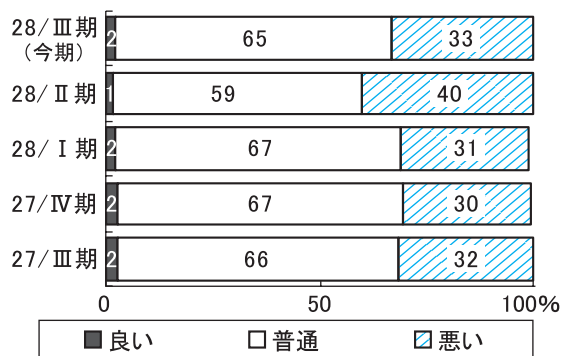
### ○ 現在の県内景気をどう見ていますか？

#### ＜「普通」が 65%＞

県内景気の判断は「普通」が 65%と、前期比 6 P 上昇した（「良い」は 2%）。

企業の業況D Iが前期比大幅に改善し、熊本地震の影響が低下していることから「普通」が上昇し、「悪化」は低下するなど、景況感は、前々期以前の状態に戻りつつある。

県内景気の判断



注) 四捨五入の関係により、必ずしも 100%にはならない。

## —アンケート調査の概要—

実施期間：平成 28 年 9 月 1 日～9 月 16 日

対 象 先：県内に本社または支店等を有する企業（600 社）

内 容：①景況判断

②自社の業況

③平成 29 年度の新卒者採用計画について

④平成 29 年度の設備投資見込み額について

調査方法：郵送によるアンケート

回収状況：回答企業 315 社（回答率 52.5%）

※本調査は、当所と宮崎県が共同で実施し、調査結果は県政にも活用されることになります。

### <回答企業内訳>

		業 種				資 本 金		
		製造業	建設業	卸小売業	サービス業	3千万円未満	1億円未満	1億円以上
企業総数	316 100.0%	98 31.9%	65 21.2%	91 29.6%	53 17.3%	141 49.0%	115 39.9%	32 11.1%
県 央	149 48.5%	28	29	56	36	65	60	16
県 北	78 25.4%	30	21	18	9	36	27	9
県 南 西	80 26.1%	40	15	17	8	40	28	7

注) 業種、資本金、所在地の未記入企業があり、総数と一致していない。下段は企業構成比率。

### <所在地区分>

県 央：宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡

県 北：延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡

県南西：都城市、小林市、えびの市、日南市、串間市、北諸県郡、西諸県郡

### <業種区分>

サービス業には、製造、建設、卸小売業以外の業種を含む

### <文中の用語>

前期：平成 28 年 6 月期調査

今期：平成 28 年 9 月期調査

来期：平成 28 年 12 月期調査

I 期：1～3 月、II 期：4～6 月

III 期：7～9 月、IV 期：10～12 月

### DI (Diffusion Index)

「好転・増加・過剰」の回答割合(%)－「悪化・減少・不足」の回答割合(%)＝DI で、景気動向を判断する指標のひとつ。

P：ポイント

## 1. 全般的業況判断

(前期比)

(表1、図1)

### <前期比改善>

今期の全産業における全般的業況DI (「好転」－「悪化」) は前期比 19 P 改善し「▲5」となった。

業種別でも、全ての業種で業況が前期比改善し、特に、卸小売業は同 24 P 改善し、「▲2」となった。

従業員別では「100～199人(+10)」が、前期比 29 P 改善した。

企業規模別では「3千万円未満(▲10)」が前期比 29 P 改善した。

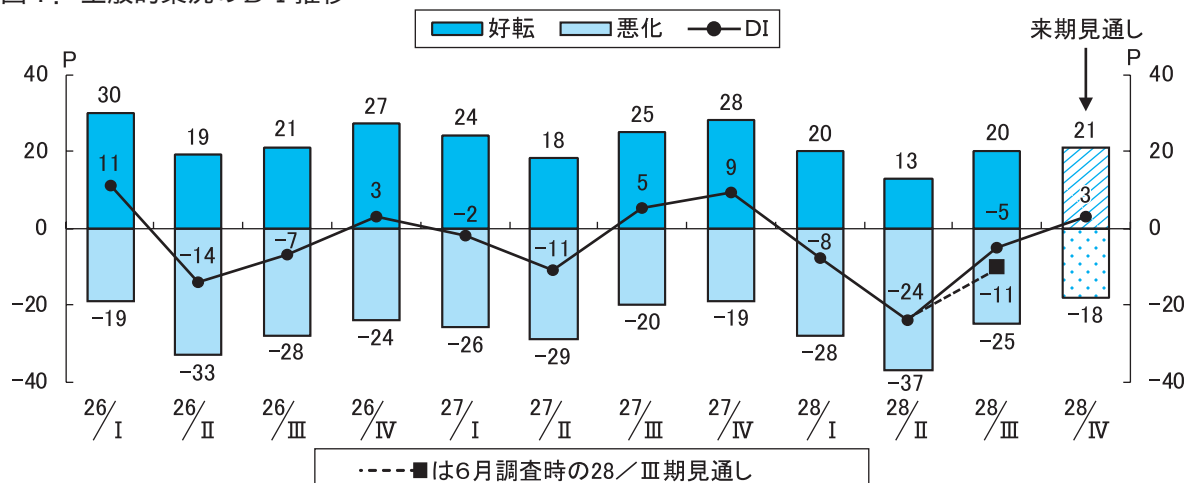
表1. 今期の全般的業況 (業種別・規模別)

単位：%、ポイント

項目	業況	好転 (A)	悪化 (B)	今期DI (A)-(B)	前期DI
全体 (316)		20	25	▲5	▲24
業種	製造業 (101)	23	32	▲9	▲24
	建設業 (67)	19	22	▲3	▲16
	卸小売業 (93)	18	20	▲2	▲26
	サービス業 (54)	20	26	▲6	▲29
従業員	50人未満 (176)	18	26	▲8	▲29
	50～99人 (55)	18	29	▲11	▲13
	100～199人 (40)	33	23	10	▲19
	200人以上 (35)	23	20	3	▲24
資本金	3千万円未満 (144)	18	28	▲10	▲39
	1億円未満 (118)	25	21	4	▲14
	1億円以上 (32)	16	31	▲15	▲11

不明分は除く、( ) は回答企業数

図1. 全般的業況のDI推移



## 2. 業種別DI

業況 (前期比)、売上・利益 (前年同期比)

○製造業 (図2、次頁表2)

### 前期比改善

今期の全般的業況DIは、前期比 15 P 改善して「▲9」となった。

分野別では、「電気電子部品」「窯業土石」「金属製品」で「受注の増加」など「好転」の回答が増加した。

来期は「県外からの受注増」や「秋冬物の製品を増産」等により、「好転」の回答が増え、DIは「+6」とプラスに転ずる見込み。

図2. 製造業DI

単位：ポイント

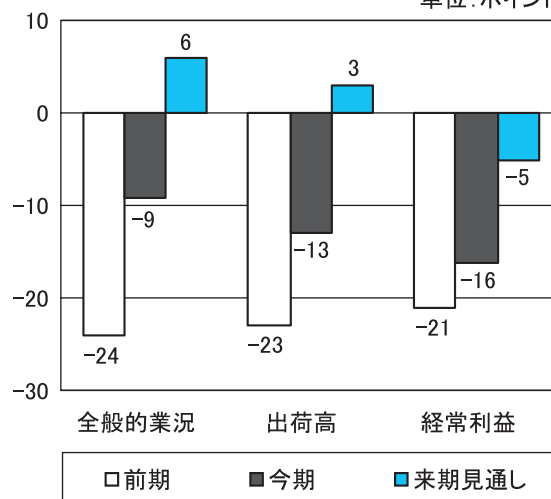


表2. 製造業9分野における業況DI

単位：%、ポイント

業種	好転	不変	悪化	今期DI	前期DI
食料品・飲料	24	36	40	▲16	▲5
繊維製品	29	28	43	▲14	33
木材木製品	19	56	25	▲6	▲53
化学製品	0	67	33	▲33	0
窯業土石	20	60	20	0	▲80
機械器具	43	43	14	29	▲16
金属製品	11	67	22	▲11	▲60
電気電子部品	50	50	0	50	▲50
その他製造業	22	41	37	▲15	▲21

○建設業 (図3)

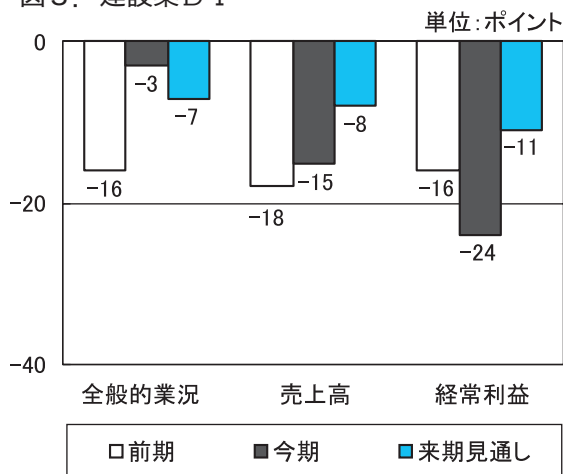
今期は「▲3」に改善

今期の全般的業況DIは、前期比13P改善して、「▲3」となった。

「公共工事の増加」「大型案件を受注」「熊本地震の復興に伴う県外取引の増加」「営業所の開店効果」等が、「好転」の要因として挙げた。

来期は、「公共工事の受注」など「好転」が一部にあるものの、「材料、資材の高騰」「地震復旧関連の工事は減少」などからDIは「▲7」に悪化する見込み。

図3. 建設業DI



○卸小売業 (図4)

前期比大幅改善

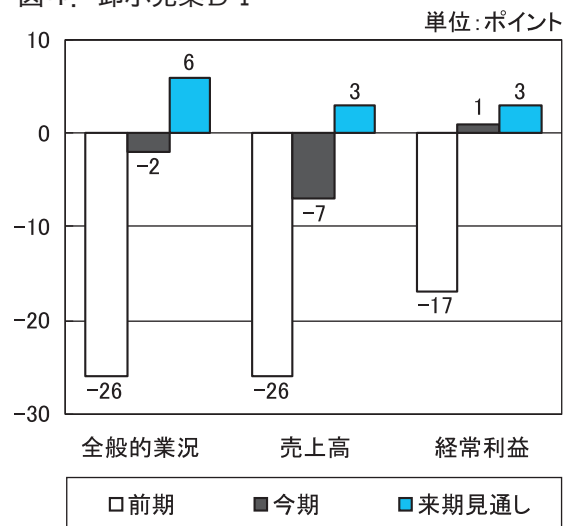
今期の全般的業況DIは「▲2」と、

前期比24P改善した。

「夏場の飲料売上の増加」「コストダウンにより利益率が改善」「新製品の売上が好調」「県外、外国からの来客増」など、「好転」の回答が増えた。

来期は「競争の激化」など、「悪化」を予想する回答が一部にあるものの、「秋冬物商品の販売増加」「年末商戦」「営業努力」から、「好転」を見込む回答も多く、DIは「+6」の見込み。

図4. 卸小売業DI



○サービス業 (次頁図5)

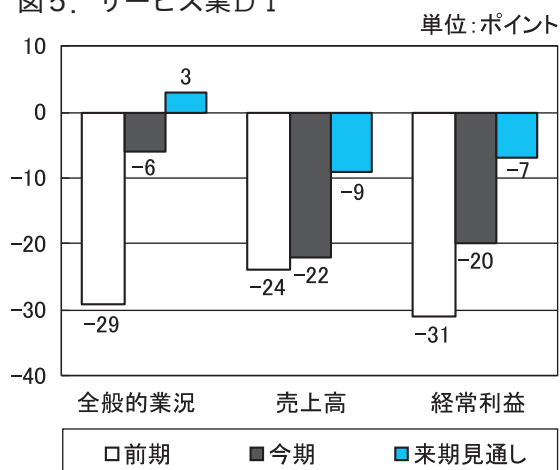
前期比大幅改善

今期の全般的業況DIは「▲6」と、前期比23P改善した。

「九州ふっこう割による宿泊客数の増加」「新サービスの展開」「シルバーウィーク消費」など、「好転」の回答が増えた。

来期は、「燃油価格の上昇」など「悪化」を見込む回答が一部にあるものの、「貨物量の増加」「サービスの強化」「秋の行楽需要」「年末の宴会需要」等で、DIは「+3」に改善する見込み。

図5. サービス業D I



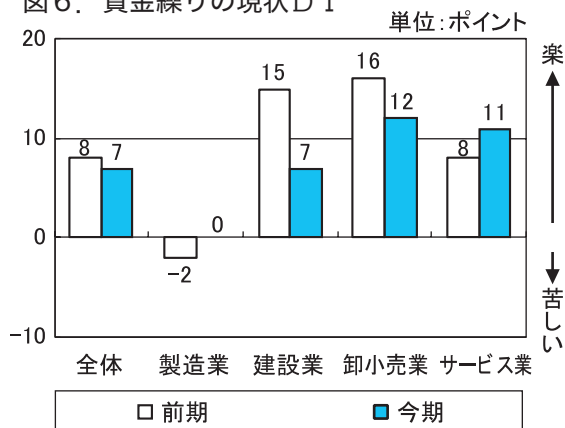
### 3. 資金繰りの現状 (図6)

#### 全体の資金繰りはほぼ横ばい

資金繰りの現状D I (「楽」-「苦しい」)は、「全産業」で「+7」と前期比ほぼ横ばいであった。

業種別は、建設業、卸小売業で前期比悪化した一方、サービス業は改善し、製造業は「0」とマイナス幅が解消した。

図6. 資金繰りの現状D I



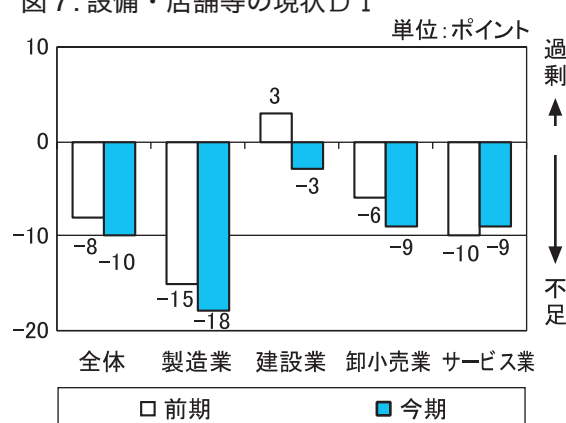
### 4. 設備・店舗等の現状 (図7)

#### 建設業は「不足」に転ずる

設備・店舗等の現状D Iは「全産業」で「▲10」と、前期比2 P悪化した。

前期と比較して、建設業は「不足」に転じたほか、製造業、卸小売業で「不足」の幅が拡大した。

図7. 設備・店舗等の現状D I



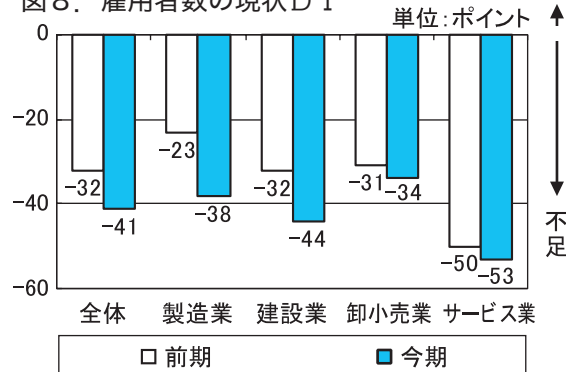
### 5. 雇用者数の現状 (図8)

#### 全ての業種で雇用者数が「不足」

今期の雇用者数の現状D Iは、「全産業」で前期比9 P悪化して、「▲41」となった。

前期と比較して、全ての業種で「不足」が拡大し、製造業は「▲38」と15 P悪化した。

図8. 雇用者数の現状D I



### 6. 平成29年度新卒者採用計画

(次頁表3、図9)

#### 今年度比「横ばい」が最多

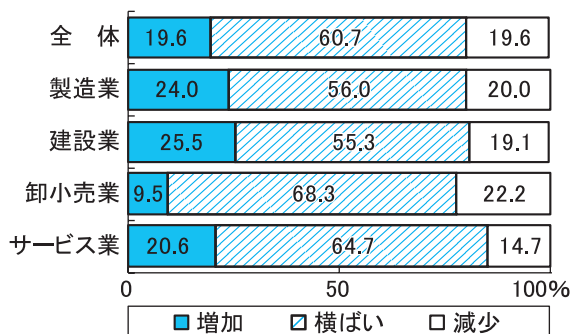
平成29年の新卒者採用計画では、「採用なし」「未定」とする企業が全体の約6割を占めた。一方、採用を予定する企業の採用人数は、今年度比「横ばい」が全体の60.7%を占め、学歴別では「高校卒(414人)」が最も多い。

表3. 平成29年度新卒者採用計画  
(業種別、採用人数別) 単位：社、人

		全体	製造業	建設業	卸小売業	サービス業
企業数	採用なし	118	36	18	46	18
	1～5人	100	36	25	23	16
	6～10人	24	8	7	5	4
	11～20人	5	2	-	1	2
	21人以上	6	3	1	1	1
	未定	62	16	16	17	13
	合計	315	101	67	93	54
採用人数	大学卒	214	85	32	55	42
	短大卒	32	4	6	4	18
	専門・専修卒	76	5	23	30	18
	高校卒	414	182	85	65	82
	合計	745	276	155	154	160

注) 不明分は除く  
※学歴不問の企業もあり、採用人数の内訳と合計は必ずしも一致しない

図9. 平成29年度新卒者採用計画  
(今年度実績比)



## 7. 平成29年度設備投資計画

(図10、11、表4)

### 今年度計画比「横ばい」が最多

平成29年度設備投資計画は、今年度計画比「横ばい(36.9%)」が最も多く、業種別では、サービス業の40.0%が「横ばい」と回答した。一方、「増加」は全体の14.9%で、業種別ではサービス業(18.0%)が最も多かった。投資額別では「1千万円以上5千万円未満(51社)」、業種別では「製造業(59社)」がそれぞれ最多だった。設備投資の目的は「更新」が44.6%と最も多く、「補修(36.6%)」「新分野への進出(21.4%)」「車両購入(20.5%)」となった。

図10. 平成29年度設備投資計画

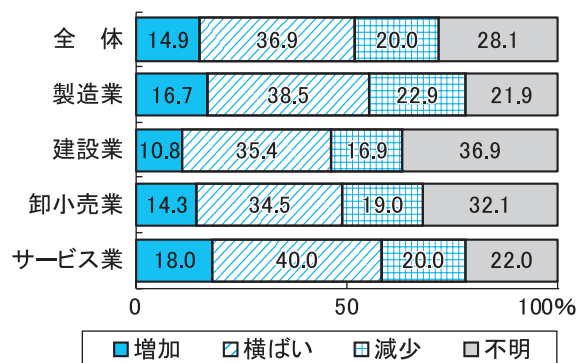


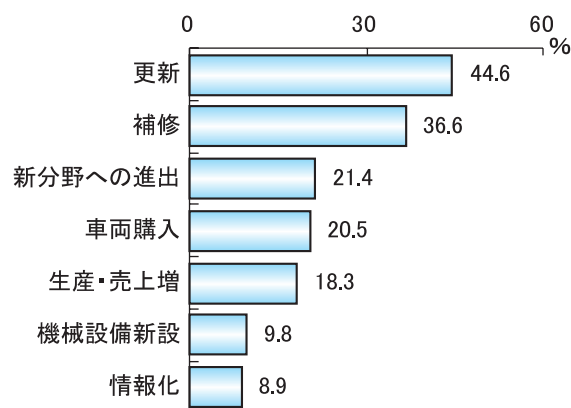
表4. 平成29年度設備投資計画(投資額別)

単位：社

	全体	製造業	建設業	卸小売業	サービス業
1千万円未満	38	12	10	11	5
1千万円以上 5千万円未満	51	22	8	15	6
5千万円以上 1億円未満	20	9	-	5	6
1億円以上 10億円未満	35	15	3	9	8
10億円以上	2	1	-	-	1
合計	146	59	21	40	26

注) 不明分及び未定は除く

図11. 設備投資の目的(複数回答)



今期の全般的業況は前期より改善し、全体の資金繰りの現状もプラスで推移する一方、店舗・設備や雇用者数は不足感が強まった。来年度の新卒採用や設備投資は今年度比横ばいながら、設備投資には「更新」の回答が多かった。

来期も業況改善が見込まれるが、引き続き店舗・設備と雇用の動向を注視する必要がある。(勝池)

## 第 86 回企業動向アンケート結果（業種別）

		< 今期見込み >				< 来期見通し >			
		好転 増加 (A)	不変 (B)	悪化 減少 (C)	D I (A)-(C)	好転 増加 (A)	不変 (B)	悪化 減少 (C)	D I (A)-(C)
アンケート回答 企業の全般的業況	全 体	20	55	25	▲ 5	21	61	18	3
	製 造 業	23	45	32	▲ 9	24	58	18	6
	建 設 業	19	59	22	▲ 3	18	57	25	▲ 7
	卸 小 売 業	18	62	20	▲ 2	19	68	13	6
	サービ業	20	54	26	▲ 6	22	59	19	3
売上(出荷)高	全 体	22	43	35	▲ 13	22	54	24	▲ 2
	製 造 業	21	45	34	▲ 13	21	61	18	3
	建 設 業	22	41	37	▲ 15	24	44	32	▲ 8
	卸 小 売 業	27	39	34	▲ 7	26	51	23	3
	サービ業	15	48	37	▲ 22	17	57	26	▲ 9
経常利益	全 体	20	47	33	▲ 13	20	56	24	▲ 4
	製 造 業	17	50	33	▲ 16	15	65	20	▲ 5
	建 設 業	12	52	36	▲ 24	20	49	31	▲ 11
	卸 小 売 業	31	39	30	1	26	51	23	3
	サービ業	17	46	37	▲ 20	19	55	26	▲ 7
		現 状							
		楽 過剰 (A)	普通 適正 (B)	苦しい 不足 (C)	D I (A)-(C)				
資金繰り	全 体	22	63	15	7				
	製 造 業	20	60	20	0				
	建 設 業	22	63	15	7				
	卸 小 売 業	23	66	11	12				
	サービ業	26	59	15	11				
設備・店舗等	全 体	5	80	15	▲ 10				
	製 造 業	5	72	23	▲ 18				
	建 設 業	4	89	7	▲ 3				
	卸 小 売 業	7	77	16	▲ 9				
	サービ業	2	87	11	▲ 9				
雇用者数	全 体	6	47	47	▲ 41				
	製 造 業	5	52	43	▲ 38				
	建 設 業	10	36	54	▲ 44				
	卸 小 売 業	7	52	41	▲ 34				
	サービ業	4	39	57	▲ 53				

※回答社数構成比%  
D I は%ポイント